

東京学芸大学附属世田谷中学校 第2学年 技術・家庭（家庭分野）学習指導案		授業者	関野 かなえ
		授業学級	2年D組（男子17名、女子17名）
授業テーマ	よりよい住まい方を考える		

1. 本題材の目標

- 情報を適切に活用し、よりよい家族関係や豊かな住生活に向けて自分の考えをもつことができる
- 自分自身の家族関係・住生活を見つめ、課題に気づき、その課題の解決に向けて、考えたことを自らの生活に生かそうとする

2. 本時の位置づけ

本題材は学習指導要領「B 衣食住の生活」(6)ア、イを中核に据え、「A 家族・家庭生活」、「C 消費生活・環境」と関連をはかった住まいの学習であり、次のように8時間で内容を構成した。

時	内容
1・2	自分と住まい・家族とのかかわりを見つめる、書籍を通して住まいへの視野を広げる
3・4	基本的な知識の確認、家族関係を考える
5	マイファミリーの家づくりに向けて考えるべきことや必要な知識を外部講師から学ぶ
6・7	マイファミリーの家づくり
8 (本時)	よりよい家庭生活、健康・快適・安全で豊かな住生活に向けて、よりよい住まい・住まい方を考える
夏季休業	本題材を通して学んだことや他教科等と関連させ、「生活の課題と実践」に取り組む

本時は本題材のねらいに迫るまとめの時間にあたり、改めて自分自身の住生活・家族関係を振り返り、住生活の課題に気づき、その課題の解決に向けて自分の考えをもち、実行しようとする態度を養うことを目指している。

8時間の学習を行った後、夏季休業中に家族・家庭生活、住生活、環境と領域を横断し、他教科等との学びを関連付けた上で、「生活の課題と実践」を実施する。3学期には、感染症対策をしながら災害食の調理実習を防災との学習に関連付けて行う予定である。

3. 本時の概要

(1) 学びを実生活に生かす

住まいは食品の購入と異なり、気軽に住み替えや変更がしにくく、実際に住まいの改善や意思決定に参画しにくいことから、大人任せになりかねない側面がある。そこで、本題材を通して目指す生徒の姿を「情報を適切に活用し、よりよい家族関係や豊かな住生活に向けて自らの考えを形成していく姿」、「自分自身の家族関係・住生活を見つめ、課題に気づき、その課題の解決に向けて、考えたことを自らの生活に生かそうとする姿」とし、授業を計画した。

本時においては、班（模擬家族）で作成した「マイファミリーの住まい」を紹介し合う活動を行う。既習事項やそれぞれの住経験を踏まえて模擬家族で住まいを考える活動の後、自分の住生活・家族関係を改めて振り返り、自分自身の今、これからの生活を見つめる時間を設ける。

(2) 情報活用能力について

昨年度の公開研究会において、「食と安全」を扱った。適切に情報を判断する力等がないと最悪の場合、死に至ることもある。私たちの健康・安全を支えるものとして、情報活用能力を育成することは「よりよく生きること」を目指す家庭分野のねらいを実現する上で不可欠であるとの考えに至った。

食領域と同様に、よりよい住まい方を考える上で、多角的に情報を検討しようとする態度や必要な情報を収集、整理、分析、表現する力等の情報活用能力の育成が求められると考える。

約180冊の書籍を通して住まいや住まい方への視野を広げ、「マイファミリーの家づくり」に向け、模擬家族での家族会議を通して互いに意見を出し合ったり、書籍やインターネット上の情報、コンピュータ支援設計ソフトを活用したりする中で、情報活用能力の育成を目指す。

4. 本時の展開

主な学習活動と予想される生徒の反応	指導上の留意点
<p>〈1. 導入〉 (3分)</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時までの振り返りを行う。 本時の学習内容を確認する。 本時の問いを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでに学習してきたことを確認し、本時の学びにつなげられるように働きかける。 各班で作成した「マイファミリーの住まい」の紹介を通して、よりよい住まい、住まい方について考えることを伝える。
<p>よりよい家庭生活、健康・快適・安全で豊かな住生活に向けて、よりよい住まい・住まい方を考える</p>	
<p>〈2. 展開〉 (1) (32分)</p> <ul style="list-style-type: none"> 全8班 (1～4班には幼児を、5～8班には高齢者を必ず家族に加える。) 前時までに自分が担当する役割の背景を考える。 <p>前時に班 (模擬家族) で作成した「マイファミリーの住まい」を紹介する。</p> <p>— 「マイファミリーの住まい」の紹介</p> <ol style="list-style-type: none"> 「マイファミリーの住まい」のテーマ 家族構成 コンピュータ支援設計ソフトを用いて、住まい、住まい方の工夫の紹介 それぞれの立場で考えたこと <p>— 質疑応答、コメント記入</p>	<ul style="list-style-type: none"> 互いに発表し合うことで、新たな気づきに出会い、よりよい住まい・住まい方について考える契機とさせる。 発表の際は、よりよい住まい・住まい方を考える上で大切にしたい視点をもとに班で考えた住まい・住まい方の工夫を紹介するように伝える。 発表中は模擬家族における自分の役割を担い、その立場で考えたことも発表させることでよりよい家族関係についても考えられるように働きかける。 発表時間が余ったら質疑応答の時間を設ける。 発表後、よかった点や課題、アドバイス等を付箋にメモをさせ、発表した班に渡すよう伝える。(青：よいと思ったところ、取り入れたいこと 赤：課題や改善点 黄色：改善の手立て)
<p>〈2. 展開〉 (2) (10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> 発表後、付箋に記入してもらったメモを共有する。 本時の発表を通して見えてきた今の自分自身の住まい方についての課題をワークシートに記入する。 よりよい家庭生活、健康・快適・安全で豊かな住生活に向けて、自分にできることを考える。 考えたことを共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれが模擬家族の中で役割を担い、家族の一員として「マイファミリーの住まいづくり」に参画をする中で見えてきたものや得たことから、自分自身の家族関係・住生活の課題を見出させる。 家族の一員として自分自身が住まいや住まい方をよりよくするためにどうしたらよいか考えさせ、主体的に住生活に参画していくことの大切さに気付かせたい。
<p>〈3. まとめ〉 (5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習のまとめを行う。 <p>夏季休業中に実施する「生活の課題と実践」について説明を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習後の振り返り (時間の関係上、宿題とする。) 	<ul style="list-style-type: none"> めまぐるしく変化する時代に対応し、また、ライフステージが変化した際にも自分にとって望ましい家庭生活や住生活が送れるようにするために、今後も多角的に情報を検討し必要な情報を収集、整理する力を身に付けることの大切さに気付かせたい。 「生活の課題と実践」を通して、学んだことや考えたことを家庭での実践につなげられるようにする。 学習前に行った問いに再度向き合い、よりよい住まい方等について自分の考えをもたせる。